

U32 ヤングオフィシャルキャンプ参加報告書

1. 日時：平成 29 年 1 月 7 日（土）～平成 29 年 1 月 9 日（月）
2. 場所：代々木第一体育館第一会議室他
3. 参加者：各ブロック及び JBA からの推薦者 30 名（男性 23 名 女性 7 名）
4. 目的：①：国際審判員資格取得に向けたモチベーションの向上
②：早い段階で国内 Top のゲーム、審判、試合分析に触れる機会の創出
5. スケジュール・講義内容

1月7日（土）

13:30 開講式 JBA 審判部長 阿部 哲也氏

13:40 研修① 早期育成について（平 育雄氏）

- ・国際資格の取得方法が変更になり、2年毎の更新制になり総人数に制限がかけられることになった。職場、家庭環境を整えて、ノミネーションを受けられる姿勢を整えること。
- ・国際資格取得に必要な S 級資格の取得、体のビルドアップ等に具体的な計画を持って取り組むこと

13:50 研修② 「ガイドライン」解説（宇田川 貴生 氏）

→ トップリーグや各県に通知されている判定のための「ガイドライン」について説明された

- ・各審判員の判定基準の統一とチームへの説明責任を果たすことを目的として作成、展開している
- ・「影響」という言葉の曖昧さを解消するため「RSBQ(リズム・スピード・バランス・クイックネス)」といった新たな概念を導入
- ・OF、DFを含めたコート上のプレイヤーが自由に動ける権利（Freedom of Movement）を審判が確保する
- ・なぜファウルなのか、をガイドラインに沿った言葉で説明できるようにすること

15:00 研修③ 観戦研修・ディスカッション 女子準決勝（JX VS トヨタ）

→ 女子準決勝でガイドライン通りに行われた判定、されるべきであった判定について議論された

- ・手を使うプレーについては、アクションとリアクションを見極め、正しい判断を下すこと

17:00 研修④ 「ガイドライン」解説・三人制メカニクス解説（宇田川 貴生 氏・上田 篤拓 氏）

→ FIBA がリリースしている三人制メカニクスの資料に基づき、説明がなされた

- ・メカニクスは三人が同じことをやって、初めてチームとして機能する
- ・DF が「イリーガル」な接触を起こしているのかどうかに視野をフォーカスすること (Referee DF)
- ・距離ではなく「アングル」が良い方が判定を下すのが原則

1月8日（日）

9:00 研修⑤ FADP 国際審判研修講義聴講 オリンピックでのレフェリングについて（内海知秀氏・橋本信雄氏）

→ ポストプレイ、スクリーン、ショット等各場面における映像クリップを基に説明がなされた

- ・手の使い方について非常にシビア。リバウンド後やトラップ後に手を使うのはすぐにファウルコールされた
- ・ボールの貰い方についても同様。ステップが多く入ればトラベリングがコールされる
- ・肘の使い方はコンタクトが小さくても必ず判定されていた。アピールを超えた振る舞いも直ぐにテクだった
- ・シリンダーから手が降りるとファウルを取られたので、そこにアジャストするよう工夫した

12:00 研修⑥ 観戦研修 男子準決勝（川崎 VS A・東京）

15:00 研修⑦ 男子準決勝を活用した映像研修（片寄達氏・上田篤拓氏）

→上記ゲームを映像で振り返ることで、試合の振り返りと分析手法の研修を実施

- ・粗暴なプレイ等が起きそうな時には、当該プレイヤーを引き離し二次災害を防ぐと同時に、ボールのステータス（保持の確認）、どのように再開するか（誰が何をするのか、フリースローの数）、をクルーで共有して、一回のコミュニケーションで正しい答えにたどり着くようにすること
- ・レフェリーとしてミスをした、と感じても、当たり前のことを当たり前に、次に起きたケースに対応し続けることが、コントロールを取戻す一番の方法となる
- ・ファウルが成立するタイミングは、RSBQがいつ崩れたかを見る事
- ・ゲームの基準を設定するために1Pでファウルと感じたものはコールした方が良い

17:00 研修⑧ 観戦研修 女子決勝（JX VS 富士通）

1月9日（月・祝）

10:00 研修⑨ 映像・語学研修（上田 篤拓氏）

→WJBL、Bリーグの映像で起きた場면을英語で説明、自身の判断を記載する筆記チェックが行われた

- ・日常生活の中でも、「これを英語でどのように伝えるか」「会話で自分がイニシアチブを握れるテーマは何か」等、実際にFIBAとして活動する際に必要な場面を想定して、知識を増やしていくアドバイスを頂いた

11:00 研修⑩ 映像・プレイコーリング（宇田川 貴生氏・片寄 達氏・上田 篤拓氏）

→片寄氏がBリーグの前に行っているプレゲームカンファレンスの内容について紹介された

- ・ファウルを判定する際に、「何がダメだからファウルなのか」を明確にしておくことで判定力を向上させる。伝えること、説明できることで、自分自身の判定基準に一貫性を持たせることにつながる。

12:00 閉講式 JBA 審判部長 阿部 哲也氏

6. 所感

U32 ヤングオフィシャルキャンプに参加させて頂き、ありがとうございました。

「基礎・基本の徹底」ということをテーマに今回の研修に臨ませて頂きました。今シーズンより、Bリーグを担当させて頂くことは光栄である反面、審判に要求される水準の高さやかかるプレッシャーの強さを毎ゲーム感じている中で、今回のキャンプでは文字通り現場の自分自身と円滑なゲーム運営を「助けられる」ものであったと思います。

特に、「映像でどのような点をチェックすべきか」「どのような理由を基に判定を下すべきか」等について具体的な問いと答えがあり、受講生にとってすぐにコート上で活かせる知識やヒントがあったと感じております。志の高いレフェリーであれば誰でも、体力トレーニング、映像をチェックすることによるフィードバック、ルールの理解の深度化、語学等多くの時間とエネルギーを自身の向上のために割いて日々を過ごしていると思います。だからこそ、その取り組みを加速化し成果につなげるスピードの向上が我々審判の世界にも必要なのだと感じます。

また、全国で研鑽を重ねている多くの仲間と知り合うことが出来たことも大きな収穫でした。審判仲間とはとても大切なものですので、このつながりを大事にしていきたいと思います。

本プロジェクトに対してご尽力いただきました、阿部部長を始め多くの講師の方々はもちろんのこと、JBA審判部の方々、地元の審判委員長に厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

以上